

2009年11月16日

名古屋市長 河村たかし殿

名古屋市民オンブズマン

代表 倉橋 克実

名古屋市中区丸の内3-6-41 リブビル6階

TEL 052-953-8052 FAX 052-953-8050

## 黒塗り車廃止の提言

私たちは名古屋市の公用乗用車（いわゆる黒塗り車）廃止を提言します。

私たちは名古屋市長室が管理する黒塗り車の本年4月から6月の運行日報を調査し、その運行状況がきわめて不効率であるのみならず、黒塗り車は必要ないとの結論に達しました。

かつて平成13(2001)年以降、私たちは市の黒塗り車について調査し、その都度削減や廃止を申し入れてきましたが、当時市当局の回答は職制等の問題もあるため、運転要員の退職等にあわせて減車に努めるとのことでした。しかし、それ以降の状況は遺憾ながら減車に努めているとは認められません。

その間にも世情は経費節減と省エネルギーの気運が高まり、黒塗り車に関しても民間企業では削減ないし全廃の方向に進んでいます。

そもそも黒塗り車とはどのような存在でしょうか。かつて運転が特殊技能であった時代には、官公庁のみならず民間でも役職者用あるいは来客用に運転手付きの乗用車を用意していましたし、また黒塗り車で送迎されることはステータスシンボルとも見られていました。

しかし運転が市民の常識となった現在、黒塗り車は古い意識から脱却できない官公庁あるいは役職者の権威を示す道具に過ぎなくなりました。

すでに民間で黒塗り車を多数所有している企業はありません。官公庁に運転者付き黒塗り車が存在すること自体、納税者の感覚と乖離しています。これは常に費用対効果を考えている民間企業と、原価に無関心な公的機関との意識の違いでありましょう。今更黒塗り車に乗って喜んでいる時代ではありません。

黒塗り車の現状 しかし、黒塗り車の廃止には市当局や市会等から相当の反論があると考えられます。ここに黒塗り車運行に関する私たちの解析結果をお示しして、決断のための資料として提供します。

### 1. 黒塗り車の運行状況

①市長副市長専用車(運行記録から専用車と判断される3台)の5・6月の運行

使用者	5・6月の 出庫回数	5・6月の 走行距離	1日当たり 出庫回数	1日当たり 運転時間	1日当たり 走行距離
河村市長専用車	115回	2158km	2.78回	5時間25分	54.5km
山田副市長専用車	118回	1003km	2.52回	4時間24分	21.0km
住田副市長専用車	54回	797km	1.34回	2時間57分	20.0km

\*4月は松原前市長時代のため5・6月について検証しています。

上表のように副市長車の運行状況は非常に少なく、サラリーマンの通勤使用並みです。

副市長の送迎はほとんど8～9時および19～21時に行われているため、送迎にはこの時間帯の出庫が少ない役員車以外の車で十分対処できます。

②専用車を除いた黒塗り車の運行状況(4・5・6の3ヶ月)

専用車以外平均運行状況は1台当たり1日に1回出庫し、使用時間は3時間以内、走行距離30km以下と極端に少なく、1日のうち65%は待ち時間です。

\* 4月 稼働黒塗り車10台 出勤日数21日間

項目	10台月間合計	10台で1日	1台で月間	1台では1日で
出庫回数	295回	14回出庫	29.5回出庫	1.4回出庫
運転時間	600時間55分	33時間運転	60時間運転	3時間運転
走行距離	6827km	325km走行	683km走行	33km走行

\*295回の出庫の内、行き先が地下鉄駅名のもものが54回、21%あります

\* 5月 稼働黒塗り車9台 出勤日数18日間

	9台月間合計	9台で1日	1台で月間	1台では1日で
出庫回数	199回	11回出庫	22回出庫	1.2回出庫
運転時間	472時間49分	26時間運転	52時間運転	2.9時間運転
走行距離	3882km	216km走行	431km走行	23.9km走行

\*1 3日間しか出庫していない338さ758号は除いてあります

\*2 199回の出庫の内、行き先が地下鉄駅名のもものが70回、36%あります

\* 6月 稼働黒塗り車9台 出勤日数23日間

	9台月間合計	9台で1日	1台で月間	1台では1日で
出庫回数	138回	6回出庫	15回出庫	0.5回出庫
運転時間	312時間05分	14時間運転	35時間	2時間運転
走行距離	4293km	187km走行	478km走行	21km走行

\*138回の出庫の内、行き先が地下鉄駅名のもものが53回、38%あります

2. 専用車以外の黒塗り車は誰が使用しているのか

下表は日報に記された乗車者名を役職別に集計したものです。

この表によれば課長未満の職員が16.5%と一番多く使用しています。一般企業では課長級が運転手付きの黒塗り車を使用するなど考えにくいことですが、まして平社員の使用など想像もできないことです。

また、主用途の一つと予想される来客の利用が5.3%と少なく、市会議員の使用も同様に5.3%です。

### 黒塗車の使用者比率

役職名	4月	比率	5月	比率	6月	比率	3ヶ月計	比率	順位
局長	48	18.0	20	10.1	31	15.6	99	14.9	2
部長	29	10.9	14	7.0	11	5.5	54	8.1	5
室長	20	7.5	14	7.0	6	3.0	40	6.0	
課長	32	12.0	15	7.5	16	8.0	63	9.5	4
次長	2	0.7	5	2.5	4	2.0	11	1.7	10
主幹	5	1.9	4	2.0	1	0.5	10	1.5	
<b>課員</b>	<b>33</b>	<b>12.4</b>	<b>36</b>	<b>18.1</b>	<b>41</b>	<b>20.6</b>	<b>110</b>	<b>16.5</b>	<b>1</b>
理事	21	7.9	15	7.5	18	9.0	54	8.1	5
参事	2	0.7	1	0.5	4	2.0	7	1.1	
教育長	9	3.4	8	4.0	9	4.5	26	3.9	
教育委員(長)	20	7.5	26	13.1	21	10.6	67	10.1	3
評価員	6	2.2		0.0		0.0	6	0.9	
監査委員	6	2.2	4	2.0	4	2.0	14	2.1	9
人事委員	5	1.9	3	1.5	2	1.0	10	1.5	
選管委員(長)	3	1.1		0.0		0.0	3	0.5	
教育委員	2	0.7		0.0		0.0	2	0.3	
資料館長		0.0	2	1.0		0.0	2	0.3	
林委員		0.0		0.0	2	1.0	2	0.3	
神谷委員		0.0		0.0	3	1.5	3	0.5	
議員	6	2.2	17	8.5	12	6.0	35	5.3	7
来客	6	2.2	15	7.5	14	7.0	35	5.3	7
市長	2	0.7		0.0		0.0	2	0.3	
副市長	10	3.7		0.0		0.0	10	1.5	
計	267	100.0	199	100.0	199	100.0	665	100.0	

### 3. 行き先から見た使用の適否

日報の行き先に地下鉄駅名そのものが記されているものを拾って、その数が出走数中の何%にあたるかを見ました。もちろんこれら全てが駅近辺の所用と断定するわけではありませんが、行き先全体の約3分の1が地下鉄駅名です。

地下鉄は名古屋市営の交通機関です。職員は地下鉄や市バスを進んで利用すべきです。それにもかかわらず安易に黒塗車が使用されているのではないのでしょうか。

\* 行先に地下鉄駅名が記載されているものの数および比率

	4月	5月	6月
地下鉄駅名が行先のもの	54	70	53
全体の出庫回数	295	193	174
地下鉄率	18.3	36.3	30.5

\* 地下鉄率  
 = 地下鉄駅行/出庫回数  
 ×100

#### 4. 民間企業の例

- ①大手自動車メーカーのH技研工業は当初から黒塗車を置いていません。
- ②市内の大手セラミックメーカーは黒塗車3台で社長副社長が優先使用し、他の役員はタクシーを使用。黒塗車があいていれば使用する。
- ③海外の子会社を含め社員7000人規模の電機メーカーは、本社に運転手付黒塗りは役員用で2台。東京本社では黒塗車無しでハイヤーを使用。海外子会社は国により違い、東南アジア、中国では運転手付、欧米諸国では代表取締役が自ら運転するのが普通と言います。
- ④H織機の場合、役員が自分で運転する車を場合によって会社の運転手が運転することもある。運転手つき黒塗車は6台ぐらい。基本的には副社長以上は送迎付き。運転手は子会社からの派遣です。この運転手はバスの運転もする。

#### 5. タクシー・ハイヤーの利用では

仮にこれら黒塗車の運行を全てタクシーまたはハイヤーで利用したと想定すると費用は下表のようになります。走行距離が最大の4月でもハイヤーで354万円、タクシーなら273万円ですみます。これは黒塗車1台分の経費にもあたりません。

黒塗車の運行をタクシーで計算

対象車両	4月			5月			6月		
	走行距離 k m	換算(千円)		走行距離 k m	換算(千円)		走行距離 k m	換算(千円)	
		タクシー	ハイヤー		タクシー	ハイヤー		タクシー	ハイヤー
市長車	1,033	327	424	1,256	397	515	902	282	370
山田副市長車	308	97	126	340	108	139	663	210	272
住田副市長車	456	144	187	289	91	119	508	161	208
その他9台	6,827	2,158	2,799	3,882	1,227	1,592	4,293	1,358	1,760
総計	8,624	2,727	3,536	5,767	1,824	2,365	6,366	2,013	2,610

\*タクシーは253mごとに80円、ハイヤーは15kmごとに6,150円で計算(名鉄タクシー基準)

#### 提言 あらためて黒塗車の廃止を提言します

政府要人等警備を要する人物以外に黒塗車を使用する時代ではなくなっています。

民主党政府となって公金の使途につき議論が盛んです。名古屋市と市会が協力率先して黒塗車廃止を決定すれば、経費節減のみならず市職員の意識改革に資するとともに、名古屋市以外の官公庁への啓発ともなるでしょう。

衆議院議員当時から黒塗車の提供を拒否し、また市長としての初登庁にあえて市バスを選ばれた河村市長は黒塗車廃止に当然賛成されることと存じます。

市長の市民感覚尊重の立場からも黒塗車廃止を決断されることを提言します。